

# 全教栃木 教育新聞

全栃木教職員組合（全教栃木） 全日本教職員組合（全教）に加盟しています。  
〒321-0138 宇都宮市兵庫塚3-10-30 TEL 028-653-0353 FAX 028-653-1579  
http://www.zenkyotcg.org E-mail info@zenkyotcg.org

## 県内6市町議会が県立入試再募集の意見書提出！ 県教委は地域の意見を尊重せよ！

### 地域の状況が議事録に

私たちが県議会と県内25市町議会に提出した「県立高等学校入学選抜で再募集を実施することを求める意見書に関わる陳情」について、昨年6月20日付の『全教栃木 教育新聞』では塩谷町議会と那須烏山市議会が採択して、意見書を県教委に送付したことをお知らせしました。

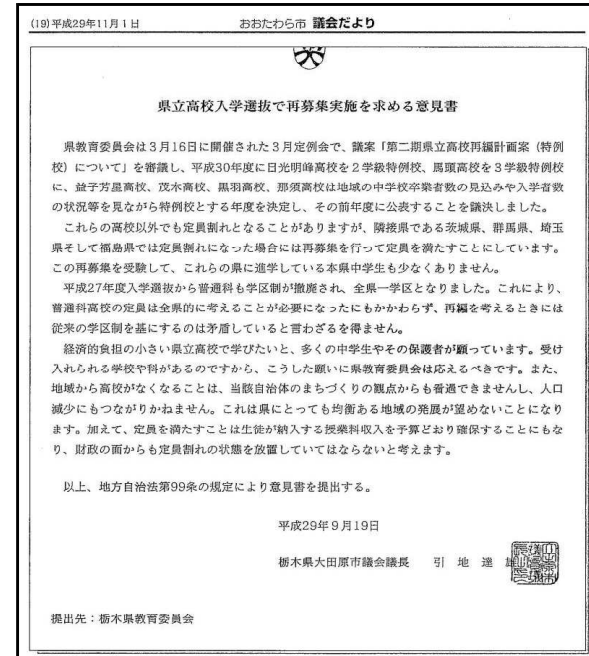
その後、組合に陳情を採択し、意見書を県教委に送付した旨の報告が4市町の議会から届きました。上三川町、芳賀町、益子町、そして大田原市です。

今号では、それぞれの議会でどのような議論がなされていたか、各議会の議会だよりや議事録を元に紹介します。

### 議会での論議は

那須烏山市議会では、陳情を審議した「文教福祉常任委員会」の報告が議事録に残されています。以下、議事録からの引用です。（平成29年第2回6月定例会第5日 <http://www.city.nasukarasuyama.lg.jp/index.cfm/11,32412,c,html/32412/20170926-173707.pdf>）

○文教福祉常任委員会委員長（田島信二）  
ただいま上程されました意見書案第2号について、提案の趣旨説明を申し上げ



ます。  
昨今、本県の県立高等学校は定員割れの学校が増加する一方で、多くの中学生の保護者が経済的負担を少なくすることができるという理由で、希望する進学先であります。本市に所在する県立烏山高等学校も、定員割れに悩まされる高等学校の1つであることから、本市の人口及び交流人口、さらには地域づくりにもかわる重要な問題であります。今よりも多く進学希望者が1回目の入学選抜の後に再度受検し、県立高等学校に受け入れられる機会がふえること、そして高等学校としては定員を満たして授業料の収

教え子を再び戦場に送らない 30人学級を実現させよう 教職員評価の昇給等へのリンク反対 教員免許更新制を廃止させよう パワーハラスメント・長時間過密労働をなくそう

### みなさんからの請願・陳情（委員会審査状況）

陳情第1号  
県立高等学校入学選抜で再募集実施を求める意見書採択・提出にかかわる陳情  
（平成29年3月提出）  
（提出者）  
宇都宮市兵庫塚3-10-30  
全栃木教職員組合  
執行委員長 桑川 祥一  
（陳情の趣旨）  
県立高等学校入学選抜で定員を満たすための再募集実施を行うよう栃木県教育委員会に意見書の提出を求めるもの  
（文教常任委員会審査の内容・結果）  
審査した結果、継続審査の理由であった、本県が県立高等学校入学選抜の再募集を行わない理由については、本県の県立高等学校入学選抜は全日制、定時制、通信制の各課程が重ならない日程で入試が行われることから、再募集を行っていません。また、文部科学省の県立高校再募集の調査では、2016年度入試で欠員が生じた場合の再募集をしながら、それ以外の4県であり、それ以外の県は、欠員が生じた場合

は再募集を実施していません。  
このようなことから、本県でも県立高校の再募集を実施し、県立高校の全日制の高校に進学したい生徒のためにも、生徒の考えにマッチングした受験制度を検討する必要があります。更に、本県が本年3月に発表された第2期県立高校再編計画（案）に、本市にある黒羽高校が特例校の候補として名前が挙がっています。黒羽高校は地元就職する生徒が多く、地元定着率が高い高校であることから、もし定員割れが生じた場合は再募集を行い、生徒を確保していくことが重要であります。このようなことから、審査した結果、全員異議なく「採択」とすることに決しました。

入を予算どおりに確保し、県教育行政の合理化を図ることが、現状の仕組みでは見込めない状況にあります。

つきましては、先ほど報告いたしました文教福祉常任委員会で審査した陳情書の採択を踏まえ、県立高等学校入学選抜での再募集について、実施を求めるべく関係行政庁に意見書を提出するものです。

以上で、提案の趣旨説明とさせていただきます。

大田原市は『議会だより』で、陳情採択の審議や結果、そして意見書についても掲載しています。再募集を実施していない県は4つしかないと指摘していますが、これは私たちの陳情について取材した栃木放送のホームページに掲載された記事によるものと考えられます。議会としても、私たちの陳情書の内容から

だけでなく、様々な情報を根拠にして陳情採択と意見書送付が行われたことが読み取れます。

未だ審議されていない議会は那珂川町と茂木町。足利市議会は「議長預かり」として、実質的な審議を拒否しています。

### やはり再募集は必要

全栃木教職員組合は今年度の県教委との交渉でも、再募集を実施することを要求しています。6つの市町議会から意見書が送付されたことを、県教委は重く受け止めるべきです。

県教委は、現行の日程から考えると再募集は難しいとしていますが、定時制入試を全日制一般選抜と同じ日に実施し、定員割れした定時制も再募集を行えば、日程の問題は解決できると考えます。

県教委は昨日、「県公立学校業務改善推進委員会」を開催しました。このことについては次号で。